

# さまざまな文学碑 地域に根付く

自然や文化、産業、人生、信仰とさまざまな方面で生きた偉人たちの文学碑が、各地域に多く存在します。文化財として受け継がれてきたものや小さなものまで、これらを知ることによって地域と碑との関わりが見えてきます。

受け継がれる童謡や校歌

詩碑 林 柳波 -沼田小学校、舒林寺(村木町)-

おうまの親子は  
仲よし こよし  
いつでも 一しよに  
ポックリ〜あるく

『うみ』や『おうま』など、一千編を超える詩を書いた童謡作家の林柳波（本名林照久）は、名誉市民として市民から親しまれています。学校歌の作詞は約40校になり、母校沼田小学校校歌も手掛けています。柳波の詩碑は市内に2基あり、ひとつは同校校庭に建つ『おうま』の詩が刻まれた碑



上) ツツジの季節。代表作『おうま』の一節が刻まれた詩碑がある沼田小  
下) 若葉のつややかな中に建つ詩碑(右)と母りきの墓(左)(舒林寺)

で、片品川産の安山岩にレリーフとスウェーデン石がはめ込まれています。碑は木々に囲まれた体育館とプールの間であり、サクラの開花や葉の色づきで季節を感じられる風情ある場所にもなっています。

もう一つは、柳波の生家隣りの舒林寺にあり、故郷の母りきを偲んで書いた詩が刻まれ、柳波生誕100年を記念して建てられました。碑の後ろには、りきが眠る墓も佇んでいます。

全国から童謡詩を募る「柳波賞」は1999(平成11)年から継続されています。



運動会では、堂々とした姿で演奏を披露



沼田小学校

小野愛菜さん(左)  
根立紗来さん(右)

## 海を思い浮かべて 拍子の変化楽しい

保護者や地域に初めてマーチングをお披露目した運動会。「柳波先生に届くように」の思いで、6年生は柳波メドレーの練習に励んできました。小野さんは「メドレーは全ての楽器に主旋律があり、『うみ』は拍子の変化があっっておもしろい」と聞きどころを伝えます。根立さんは柳波が歌詞に込めた思いや情景を想像することを常に意識し、「海に行ったことがない人でも、思い浮かべてもらえたら」と話します。学校創立150年の式典が最後の演奏。皆の心を一つにして感動を届けます。